

ベネズエラの投票傾向はどちらに有利か

連帯活動家アーノルド・オーガストが、ベネズエラの 1998 年から 2024 年の投票動向を社会科学の視点から検証する。

アーノルド・オーガスト

ベネズエラアナリシス 2024 年 8 月 21 日

[Voting Trends: Do They Favor Machado/González or Maduro? - Venezuelanalysis](#)

現在の与党（チャベス主義運動）が政権をになった 1998 年から 2024 年までのすべての国政選挙結果をまとめてみると、以下のような表になる。これにはすべての大統領選挙、憲法制定議会選挙、国会議員選挙、各種国民投票の結果がすべて含まれている。（次ページの表を参照）。

同種の選挙を比較することが重要であるため、地方選挙や市町村選挙は含まれていない。議論を呼んでいる 2024 年 7 月 28 日の大統領選挙を、1998 年以降の同様の選挙と比較している。これをみると与党、表の灰色の網掛けが示すように、2 回の選挙を除いてすべて勝利している。後述するように、この敗北でさえも「不正」の告発に重大な疑念を抱かせるのは皮肉なことである。

投票動向と表に示したデータに基づくと、米国主導の「不正」説は信用できるのだろうか。それとも、ベネズエラに憲法上設置されている全国選挙管理委員会（CNE）が信用できるのか。ベネズエラの公式選挙機関の厳密かつ完全に正当化可能な主権的合憲性は別としても、そのどちらかである。

憲法の法的権威はさておき、とりあえず悪魔の代弁者になって、"投票動向と関連する人口統計学的要因によって、マチャド / ゴンサレス氏とニコラス・マドゥロ氏のどちらが信用できるのか？"という問いに答えてみよう。

Venezuela: All National Electoral Results, 1998–2024

DATE/TYPE	TURNOUT	CHAVISMO	OPPOSITION
1998 Presidential	64%	56%	44%*
1999 Constitutional Referendum:			
• Question 1 (New Constitution)	38%	88% [YES]	12% [NO]
• Question 2 (Constituent Assembly)	38%	82% [YES]	18% [NO]
1999 Approval of New Constitution	44%	72% [YES]	28% [NO]
2000 Presidential	57%	60%	40%
2000 National Assembly	56%	44% [98 SEATS]	16% [33 SEATS]**
2004 Recall Referendum	70%	59% [NO]	41% [YES]
2005 National Assembly	25%	86% [161 SEATS]	14% [6 SEATS]
2006 Presidential	75%	63%	37%
2007 Constitutional Referendum:			
• Block A questions	56%	49% [YES]	51% [NO]
• Block B questions	56%	49% [YES]	51% [NO]
2009 Constitutional Referendum	70%	55% [YES]	45% [NO]
2010 National Assembly	66%	48% [96 SEATS]	47% [64 SEATS]
2012 Presidential	81%	55%	45%
2013 Presidential	80%	51%	49%
2015 National Assembly	74%	41% [55 SEATS]	56% [109 SEATS]
2018 Presidential	46%	68%	32%
2020 National Assembly	30%	62% [253 SEATS]	7% [11 SEATS]
2024 Presidential	58%	52%	48%

General notes: Figures are rounded. For voting on the Constitution or its reforms, or for recall referendums, the columns “Chavismo” and “Opposition” correspond to “Yes” or “No” votes. For illustration purposes, no distinction is made under the “Opposition” column between the far right and moderate opposition parties. The sections in grey indicate a loss for Chavismo. The Bolivarian Revolution has significantly advanced the promotion of First Peoples’ rights, which is also evident in the electoral system. However, due to the complexity of this process, this article cannot fully address these achievements. As a result, these aspects will not be explored in detail here. The 2017 Constituent Assembly vote is not included in this list because it was boycotted by the opposition, leading to skewed results in favour of Chavismo, which disrupted the usual voting trend.

*For Presidential elections, the percentage shown for “Opposition” is the total percentage of *all* opposition parties.

**For the National Assembly elections, only the *main* opposition party is represented in the “Opposition” column for the number of seats won.

© Credit: Arnold August and *Venezuelanalysis*, August 19, 2024. Arnold August claims all responsibility for any discrepancies in this chart.

表の最初の 5 つの選挙結果のうち、4 つの投票傾向はおのずと明らかである。例外は 1999 年の新憲法制定の国民投票で、これが新憲法の必要性を訴えたチャベス大統領の選挙公約にもとづいておこなわれ、2 つの質問で構成された。「国家を変革し、社会参加型民主主義を効果的に機能させる新しい法制度を創設する目的で、国民制憲議会を招集しますか」、「政治・社会・経済部門の意見を聴取した後、政府法が制憲議会議員を選出する選挙プロセスの基盤を確立するよう、共和国大統領に権限を与えますか」。表が示すように、これらは圧倒的多数で承認された。

チャベス大統領の罷免をもとめる 2004 年の国民投票は、野党が最低署名数を獲得した後に開始されたので、「民主的かつ合法的な選挙によってウゴ・チャベスに与えられた大統領としての民意を、現任期中に取り消すことに同意しますか？ NO か YES か？」というものであった。結果は反対票が勝利し、野党がねらったチャベス失脚の目標は打ち破られた。

2007 年にチャベス大統領がよびかけた憲法（の一部改訂の）国民投票は、主に大統領任期の制限撤廃と、労働者人民のためのさまざまな政策に関する 69 の改正に関する 2 つの質問ブロックから構成されていたが、提案は僅差で否決された。与党が選挙で敗北したのはこの時と、2015 年の国民議会選挙だけである。

2024 年 7 月 28 日の選挙結果についての対立候補の主張の信憑性について、投票動向は何を物語っているのだろうか。野党は、独自の選挙集計 = マイアミでおこなわれた = に基づき、地滑り的な勝利を収め、全州を制圧したと主張している。一方、マドゥロ候補は 600 万票以上という公式選挙結果を受け入れている。マイアミとカラカスの地理的・政治的格差はさておき、比較的単純な数字の計算で、おそらく結論が導き出せるだろう。

まず、前述の 2007 年憲法改訂国民投票は野党が勝利し、もちろん野党は結果を受け入れた。与党勢力も敗北した不利な結果を認めた。しかし、敗北はしたものの与党は、国民投票の二つの質問で平均 436 万票を獲得しており、この結果は野党も事実上受け入れた。もちろん、このとき野党は「詐欺だ」とは叫

ばなかった。この436万票という与党のデータは、2024年のマドゥロ支持の600万票と比較的近く、国中で野党が圧勝したという主張に対抗している。

さらに、2007年の人口は約2,600万人で、登録有権者は約1,600万人だった。したがって、436万票のチャビスタ票は、人口が2900万人近く、そのうち約2100万人が登録有権者であった現在の7月24日の投票と比べて、より小さな母数から引き出されたものである。このように比較してみれば両選挙の差(436万対600万)はもっと縮まるわけで、これらの数字は、地滑りの勝利という野党の主張に疑問を投げかけるものでもある；

第二に、2015年の国会議員選挙は、唯一の与党敗北となったが、それでも与党は562万票を確保した。この結果は、2024年のマドゥロへの600万票と同じ範囲内であり、野党の荒唐無稽な主張をさらに信用できなくしている。両選挙間で人口は比較的安定していたが、登録有権者は2015年の約1,950万人から2024年の約2,100万人へと増加したため、与党が2015年に獲得した562万票はさらに重要であり、2024年の大統領選挙が圧倒的勝利という野党の主張にさらに対抗するものである。

この表によると、マドゥロ候補への支持率は顕著に低下しており、2018年の大統領選挙では68%だったのが、今回の選挙では52%になっている。ではマドゥロ候補の人气が衰えつつあり、2024年の投票で勝利する可能性がないことを示唆しているのだろうか。必ずしもそうではない；

これを分析するには、主要野党勢力が2018年の大統領選挙のボイコットをよびかけたことを思い出すことが重要だ。この棄権の呼びかけは、主要野党連合であるMUD(Mesa de la Unidad Democrática)によって先導され、その効果は大きく、投票率は46%にとどまり、ベネズエラの大統領選挙としては過去最低だった。

比較的低い投票率がマドゥロに有利に働き、マドゥロはその年の人気投票で記録的な割合を獲得したのだった。したがって、2018年から2024年にかけての投票傾向の違いは、棄権を推進した主要野党のせいでもある。さらに、2018年、マドゥロが獲得した実際の票数(624万票)は、近年の大統領選挙の一般的な範囲内に収まっている。

この間の州知事選挙での与党支持の投票傾向は以下の通りである。730万（2006年）、819万（2012年）、758万（2013年）、そして640万（2024年）である；

2007年の憲法改訂国民投票で敗北した際の与党の得票は436万票、2009年の憲法国民投票では631万票、2010年の国会議員選挙は545万票、2015年の国会議員選挙は562万票、2020年の国民議会選挙は391万票であった。

従って、7月28日の大統領選挙でマドゥロ候補率いるベネズエラ社会主義統一党（PSUV）が獲得した640万票という数字は真実の可能性が高いものであって、一方、米国が主導している野党の地滑りの勝利という非常識な主張にはまったく説得力がない。それどころか、この数字は、唯一の不正は野党の態度であり、マドゥロ候補が勝利したことのさらなる証となっている。まさにマドゥロ大統領とボリバル革命は、特にラテンアメリカとカリブ海諸国の政府だけでなく、世界中の人々の支持を得て当然といえるのである。

（了）

【翻訳チェック 田中靖宏】